

真庭高等学校 落合校地

動かすのは、ペンだけじゃない
真庭高 × 地域



落合高校時代から受け継がれる、白梅祭での応援合戦。(白梅祭体育の部)



ブルガリアの高校生と交流。
(ユネスコスクール実践交流会)



知りたいことは、地域の人に教えてもらいます。
(真庭ひとつなぎフォーラム)

真庭高校落合校地には、普通科と看護科及び専攻科が設置されており、落合高校の伝統を受け継ぎながら、日々進化しています。高校生の今だからこそできることがある。落合だからできることがある。机に向かうだけが勉強じゃない。ペンを動かすだけが勉強じゃない。勇気を持って一歩を踏み出すことができるのは、いつも近くに背中を押してくれる仲間や先生がいるから。地域で行動し、地域と連携し、地域に貢献し、地域から学ぶ。頭も体も心も動かす、それが真庭高校落合校地です。

普通科

TR(真庭トライ&レポート)



TR 成果発表会の様子

普通科の特色として、総合的な学習の時間、通称「TR(トライ&レポート)」があり、「まずやってみる」をモットーに活動しています。昨年度1年生は、本校近くの「しめ山」を舞台に、しめ山の動植物や歴史の調査、遊具の研究を行い、2年生は看護科と共に、「地域自然資源×進路」をテーマに、特産品を用いた介護食や石鹸作りなどの研究を行いました。地域や自然、人と繋がりながら楽しく活動しています。

看護科
仲間と共に成長する

看護科では、1年生から病院で看護にふれながら命に向き合い、看護師を目指す者としての責任感を学び始めます。普通科と共に学校行事や総合的な学習の時間などに取り組み、地域の情報を含めた幅広い知識を得ることができ、さらに専攻科の2年間では、より専門的な看護について学び、仲間と共に一歩一歩自分の看護師像に近づき、人としても成長できる魅力的な科です。



第48期生 校内演習の様子

真庭高等学校 久世校地

農業クラブ全国大会 最優秀賞受賞

昨年10月岡山県で、第68回日本学校農業クラブ全国大会が開催されました。本校食品科学科3年(当時)の松尾麻奈佳さんが、第Ⅱ類開発・保全・創造の分野で「手作りみそから加工食品へ」と題して発表し、見事全国最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞しました。久世高校時代から遡ってみても全国大会最優秀賞は初受賞です。また、大会式典では真庭との縁をきっかけにサプライズゲストとして来岡された小泉進次郎氏を本校3年(当時)の瀬島達也さんが紹介し、会場のジップアリーナを沸かせました。



松尾麻奈佳さん(月田)の発表本番の様子



大会式典での授賞式



大会式典で司会をする瀬島 達也さん(下河内)

食品科学科では、課題研究の学習の成果を「ジビエ料理」という形で地域に提案する活動をしています。昨年度は、久世商店街活性化の取組の一つとして「風曜日」を会場に実施しました。わたしたちが考案したジビエ料理を、この1年真庭高校の地域連携活動でお世話になった地域の方を中心に約20名招待して試食していただきました。とても好評で、皆さんから美味しいと言って頂きました。

食品科学科 ジビエカフェにようこそ！



牛と散歩する中学生

生物生産科 畜産交流会を開催しました

生物生産科では学校の充実した農場を活用し、農業の特色をいかした地域連携活動を行っています。昨年度は真庭市内の中学生を対象にした畜産交流会を実施しました。3年生の畜産専攻生が交流会を企画・運営し、牛のブラッシングと散歩、牛乳の飲み比べなどを体験してもらいました。参加した14名の中学生は牛とのふれあいのなかで、貴重な体験ができたようです。



ジビエカフェ当日の様子